
赤い月の契約

あふゆー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い月の契約

【Nコード】

N1639B

【作者名】

あふゆー

【あらすじ】

私は中学3年学校の日直で帰りが遅れた私は工事中のふたの開いたマンホールに落ちてしまった。目が覚めたとき、そこは今までとは違う世界だった・・・。

赤く輝く月

私は中学3年

その日、日直だった私は一人遅れて教室を出て帰路につく……。

私「ああ、独りで帰るとか寂しすぎる。日直なんて面倒くせえ……

」

その時、私の近くをとおりかかった美しい女性に視線がいき、前にある工事中でふたのとれたマンホールには気付かなかった……。

ボコッ

痛っ なんだよもう

何時間……いや何日たっただろう

私は目が覚めた。

私「ん？ なんだこっ」

目の前に広がる見たことも無い光景……沼、腐れ木、やせ衰えた土地……。

中でも異様な程に不気味な赤い月。 それはここ一帯を照らす唯一の光源。

私「ちょw 待て。 笑い事じゃないぞ 何も無い。さっきまでいた所と全然違うじゃねえかよ」

私は驚きを隠せないまま、赤く照らされた獣道を抜けやっどひとけのある街らしき所に着いた。

私「おお あるじゃねえかよ 街が。」

安心して街をぶらぶら歩いてみるが人が見当たらない。 夜・・・
なのか？

そう思った瞬間、背後に気配を感じた私はさっと振り向き相手を確認するかいなや、気絶して倒れてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1639b/>

赤い月の契約

2010年11月27日18時27分発行